

Lenovo DX8200N 次世代SDSアプライアンス

「標準ハード」で実現するエンタープライズ・ストレージ

DX8200Nユニファイド・ストレージの特徴

✓ あらゆるワークロードへ対応可能

標準ハードウェア(x86/JBOD)とNexenta SDSの組み合わせにより、オールフラッシュ、SSD/HDDハイブリッド、オールHDD構成まで、パフォーマンス、容量、価格の要件に合わせたストレージを統一アーキテクチャで提供可能です。Lenovo DX8200Nのデフォルト・アプライアンス構成から製品を選択するだけで、あらゆる要件のストレージに対応します。

✓ 複雑化するストレージ管理を簡素化

一つのソフトウェア(SDS)と標準ハード(x86/JBOD)の組み合わせで、エンタープライズ・アプリケーションからバックアップまで、全てのストレージ機能を提供します。ストレージ専用ハードウェアやワークロードにより異なるソフトウェアの混在がなくなるため、ハードウェア/ソフトウェアの運用管理は非常にシンプルとなります。また、NexentaFusionのGUI管理ツールにより、複数のストレージシステムを一括で管理、設定、分析、監視することで、運用コストを削減可能です。

✓ 最高のコストパフォーマンス

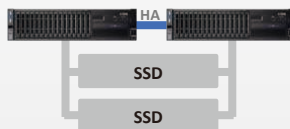
既存のコンピュータードで大量に利用されている x86サーバーを用いることで、ハードウェアの信頼性を確保しつつ、最新のx86サーバーや SSD/HDDドライブをリーズナブルな価格でストレージノードにも活用することが可能となります。Nexenta SDSには、最新のx86アーキテクチャを最大限に引き出すための技術が搭載されています。最新のIntel CPUへの対応、搭載物理メモリの80~90%をキャッシュとして利用可能な構造(例: DX8200N 256GB搭載)、システム当たり数TB~数PBまでの容量対応など、コストパフォーマンスに優れたストレージ・アプライアンスを実現します。



Lenovo DX8200N

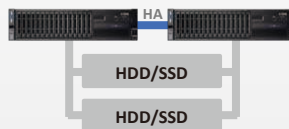


高パフォーマンス
(高IOPSの実現)



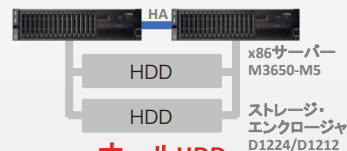
オールフラッシュ

容量/パフォーマンス
(コストパフォーマンスとのバランス)



ハイブリッド

大容量
(容量単価の引き下げ)



オールHDD

あらゆるワークロードに最適なコストパフォーマンスで対応

DX8200Nでストレージの課題を解決！

課題 1

どのストレージを選択して良いか分からない… 用途に特化した専用ストレージハードウェアが多く複雑で分からない…

従来のストレージ製品では、特定の用途に特化する形で提供されています。オールフラッシュ専用、仮想化特化型、大容量対応のみ、バックアップ専用など、同じベンダーでも異なる仕組み、各製品が独自のハードウェア/ソフトウェアのアーキテクチャを持ち機能が重複しています。

DX8200 で解決！

全て統一アーキテクチャでシンプルに選択可能！

DX8200Nであれば、全てのストレージ要件に対して統一の標準ハードウェアとソフトウェアの構造を持ち、非常にシンプルに選択可能です。x86サーバーとNexenta SDSは全て同じ、後は、コスト/パフォーマンス要件に応じて、SSD/HDDの組み合わせを選択するだけです。



課題 2

ストレージ運用・管理が複雑化してしまっている… 用途に応じて導入された各ベンダーのストレージが組織内で乱立している…

それぞれのグループ単位や用途に動じて導入された専用ストレージは、個々ばらばらの調達・運用コストがかかります。管理はそれぞれとなり、保守コストも異なるため、それぞれの技術者養成や障害対応など、複雑な管理を必要とします。

DX8200 で解決！

集約化や複数システムも一括で管理・運用！

標準ハードを用いた統一アーキテクチャによりコストパフォーマンスに優れ、あらゆるワークロードに対応するDX8200Nであれば、複数ストレージの集約を実現することも可能です。また、Nexenta SDS管理ツール「NexentaFusion」により、複数のストレージシステムの管理・運用を単一のWeb GUIで実行可能です。(開発環境REST APIも充実)



課題 3

既存ストレージはパフォーマンスがでない… 高価な調達・保守コストなのに、期待されるスピードが出ていない…

専用ハードウェアで設計されたストレージの場合、旧式のCPUが採用されていたり、搭載される物理メモリに制約があるなど、必ずしも適切な価格とパフォーマンスのバランスが取れているとは限りません。

DX8200 で解決！

x86搭載の最新CPU/大容量DRAMを最大限活用！

標準x86サーバーであるLenovo M3650-M5を用いることで、最新高速のCPUと大容量DRAM (例: 256GB)をリーズナブルな価格で提供可能です。Nexenta SDSにより、大容量DRAMの最大90%をキャッシュとして利用します。さらに、ハイブリッドストレージには、高速(低レイテンシー) SAS SSDを用いることで、SSDの書き込み速度を実現しつつ、フェイルオーバー時のデータ保護にも利用します。

